



梨花

題字 / 西尾 邑次
名誉会員揮毫

第 36 号

2010年12月20日発行
東京鳥取県人会事務局
〒102-0093
東京都千代田区平河町2-6-3
都道府県会館10F
電話 03(5212)9178
FAX 03(5212)9079
発行責任者 / 鳥飼公雄
編集 / 県人会広報部会
<http://www.pref.tottori.lg.jp/tokyoooffice>

「総会と懇親の集い」初の日曜昼都心開催

参加者例年と変わらず盛大に、ブラジル県人会長も出席



恒例の東京鳥取県人会「総会と懇親の集い」は、10月24日正午から午後2時30分へかけ、九段下のホテルグランドパレスで盛大に開かれた。これまで港区白金台の八芳園で平日の夜に開いていたものを「都心部ホテルでの日曜昼開催」へと方針を大きく転換したため影響が懸念されていたが、出席者は例年とほぼ同数の230人と変わらなかった。総会に先立ち、会場前では今年も桑田、直井両会員らによる抹茶サービスが行われ、多くの出席者に喜ばれた。総会は鳥飼会長の挨拶、川口事務局長（鳥取県東京本部長）の会務報告と簡単に終わったが、次いで行われた懇親の集いは盛りだくさんだった。

世に及ぶ鳥取ゆかりの人は今や1万6千人に達します」と紹介、さらに「我々は創立60周年を迎える再来年、サンパウロで鳥取県人会世界大会を開きたいと考えています。皆さんの参加を心からお待ちしています」と訴えた。会場の一角にはアンテナショップによる物産コーナーが設けられ、今年には特に県酒造組合所属20歳による地酒コーナーも目見えた。壁面ではふるさと鳥取の風景を紹介したスライドショーが展開され、ステーションは「チーム恵り香」と称するグループの賑やかな歌と踊り。そして最後は例年通り福引、故郷（ふるさと）斉唱で締めくくり、1年後の再会を誓い合って散会した。今年には会員全員の名簿と関東地区同窓会・町人会事務局一覧を載せるなどプログラムも充実していたし、会場運営もスムーズだった。事務局やお手伝いの明倫館、清和寮ほか関係者の皆さん、本当にご苦労様でした。（本池滋夫）

あの街 この町 (33)

鳥取県唯一の「村」 日吉津村を紹介します

日吉津村

日吉津村は、明治22年10月に村制を施行し昨年120周年を迎えました。鳥取県には大級のイオンショッピングセンターがあり、村というより津村の3つの「村」がありましたが、平成の大合併を経て日吉津村が唯一の「村」となりました。人口は約3,300人、面積は4.16km²と二辺2km程度の小さな四角い村で、海側以外の三辺を米子市にぐるり囲まれています。平成の大合併の際には住民投票を実施し、「村として存続」との意見が過半数だったため合併せず、今日に至っています。日吉津は、古くは「津津」と書き、文字どおり津の生えた海岸の沼地だったようです。「津」の字面を嫌って1571年に「日吉津」に改名されたのが「日吉津」のはじまりです。現在の日吉津村は「王子製紙」の大工場と山陰最盛の商業の中心地です。村の特産品は、昭和37年頃から栽培が始まったチューリップです。村花にも指定されており、昭和50年代後半のピーク時には93,500㎡の作付面積があり、花畑から望む大山の景色が大変きれいで、近年は外国産の球根に押され採算がとれなくなりました。近年は外国産の球根に押され採算がとれなくなりました。日吉津村は住民税がタダ（若しくは激安）という話も聞かれますが、これは都市伝説（村伝説）で、残年ながらそんなことはありません。住民税は県内自治体と同様です。（日吉津村総務課）

▲「チューリップマラソン」の様子

ガイナレ鳥取最新情報

日本フットボールリーグ (JFL) 制覇!!

10月24日、米子市のどらパーク米子陸上競技場が歓喜の声に包まれました。待ちに待ったJFL優勝に、選手はもちろん応援してきたサポーター、関係者をはじめ多くの方が喜びを爆発させました。鳥取県のプロサッカーチーム「ガイナレ鳥取」は、Jリーグへの参入を目指しJFLで戦ってきましたが、過去2年続けて5位と悔し涙を流してきました。今年は開幕から好調をキープし残り5試合を残して早々に優勝し、J2への昇格を決めたのです。



▲交流会にガイナレ鳥取の選手が勢揃い

随想リレー



永年のサラリーマン生活から今に駆け回りながら生まれ育ちまの飲食業の仕事をしたのは私が56歳の時、まさか居酒屋の仕事をする事に成ろうとは考えても見ませんでした。お陰さまで、今更景が今更ながら懐かし素晴らしいものと思われました。今の仕事のきっかけは、長兄が「稲田屋」を日本橋にスタートさせました。稲田家から受け継いだ伝統ある蔵元の存続に危機感を持った事が始まりでした。戦前まで梅原家も酒造りをして居ただけに何とかしてこの蔵元を存続させたい。長兄を応援しな

に駆け回りながら生まれ育ちまの飲食業の仕事をしたのは私が56歳の時、まさか居酒屋の仕事をする事に成ろうとは考えても見ませんでした。お陰さまで、今更景が今更ながら懐かし素晴らしいものと思われました。今の仕事のきっかけは、長兄が「稲田屋」を日本橋にスタートさせました。稲田家から受け継いだ伝統ある蔵元の存続に危機感を持った事が始まりでした。戦前まで梅原家も酒造りをして居ただけに何とかしてこの蔵元を存続させたい。長兄を応援しな

兄弟力合わせて家業を支え、東京進出に成功

稲田屋社長 梅原 俊治

稲田家から受け継いだ伝統ある蔵元の存続に危機感を持った事が始まりでした。戦前まで梅原家も酒造りをして居ただけに何とかしてこの蔵元を存続させたい。長兄を応援しな

●山陰を再発見 厳選された「旨い味」「匠の人」「手作り工芸」を 季刊で紹介「こだわり情報誌」

キさんいん 冬号

発行元 南グリーンフィールズ
〒685-3532 鳥取県米子市上新印342-1
TEL 0859-27-7074 FAX 0852-22-7015

不動産取引・分譲売買・仲介・賃貸借
拓産グループ
株式会社 秀拓
代表取締役 米原祥雅
〒685-3532 鳥取県米子市上新印342-1
TEL 049-233-1103 FAX 049-232-2336

松本博法律事務所
弁護士 松本 博
〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-2-17
トキワビル4F
TEL 03(5833)3915
FAX 03(5833)3916

手打ちそば レストラン
茅ぶき屋根の かすみや
店主 田中 克尋 (伯耆町出身)
〒351-0001 埼玉県朝霞市上内間木796-6
TEL 048-456-1505
<http://www.katsumiya.com>

結婚式 / 各種宴会集会 / レストラン
八芳園
HAPPO-EN
東京都港区白金台1-1-1 / TEL 03-3443-3111
<http://www.HAPPO-EN.com>

「総会と懇親の集い」パチリ！ スナップショット集 (カメラ/事務局)



▲賑やかな総会風景。懐かしい郷土の言葉に230名の笑顔がこぼれる。



▲司会の福嶋智恵さん ▲平井鳥取県知事挨拶



▲勇壮な因幡の傘踊り



▲恵り香さんによるステージ



▲湯原国会議員と八村副会長が談笑



▲竹内鳥取市長と鳥飼会長の清談



▲時計まわりに小川さん、神庭さん、天野勇さんのお三方をパチリ



▲ドリームプリンさんによるマジックショー



▲華やかな扇の演舞

寄稿

釣り三味の夢実現

西村 富雄(米子市)

昭和28年に上京し、平成3年に定年退職した。米子市のはずれ旧五千石村で生まれた。当時はまわり一帯が水田だったので、田んぼに水を引くための小川も多かった。小学生の頃家で勉強したことなど一度もなかった。勉強は学校ですもの、家では遊びと手伝いをするものと思っていた。遊びも釣り、小鳥とりなど、自然環境の中でのものが多かった。進学したり、就職した後も、趣味は釣りである。退職したら気ままに全国を釣り歩くのが夢だったので、第二就職の誘いはすべ

て断っていたが、平成5年9月に、当時東京駅大丸百貨店の9階にあった「鳥取県物産観光センター」の所長という話があった。県の観光と物産を首都圏にPRするのが主な仕事というところだったので、日頃からの鳥取県の知名度の低さを痛感していたため引き受けることにした。

在職中にはケーブルテレビで「砂丘らっきょ」の話をしたり、和紙祭や「ちぎり絵」の体験講習で因州和紙の知名度を高めたりと、微力ながら努力した。しかし、アンケート調査などをしてみると、鳥取と鳥根の区別もつかない人が多く、知名度の低さはあまり変わっていない。出雲大社や足立美術館のある鳥根の方が知名度は高く、鳥取では砂丘の知名度が突出して高かった。

二十世紀梨の売りに合わせた9月には、毎年三越本店で開催されていた鳥取物産観光展も盛況だったが、今は中止になり淋しい限りである。何とか復活させたいものである。

センター在職中は大変忙しく、殆ど休めない状態だった。このまま続けたい願った夢が実現できなくなると思い、3年で退職した。車に釣具一式を積み、スケジュールなし、行く先々で釣りを楽しくしながらの旅は至福の極みであった。もうひとつの楽しみは、各地の窯元

訃報 慎んでお悔やみを申し上げます

齋木 勉氏

去る5月17日、内臓疾患のため逝去。長い間、(株)有朋社の社長を勤められた。第15代東京鳥取県人会会長、享年86歳。



追悼文 天野 勇(14代会長)

11月2日、広報担当者からの電話で、齋木氏の訃報を受けた時は、一瞬、言葉を失った程ご冥福を祈ります。 合掌

中野 純氏

去る9月7日、すい臓癌のため逝去。朝日新聞西部本社代表取締役を勤められた。第16代東京鳥取県人会会長、享年79歳。



追悼文 林田達郎(幹事)

氏は鳥取一中、一高、東大との旧学制を歩まれ、社会人として朝日新聞社入社以来、ご冥福を祈ります。

「食のみやこ鳥取プラザ」オープン2周年が過ぎて

東京・新橋に誕生した鳥取県のアンテナショップ「食のみやこ鳥取プラザ」も今年で2年が過ぎました。食を通じて鳥取県を少しでも多くの方々に知ってほしい、おいしい産品を味わってほしいとの思いを込めて、日々走り続けてきました。

1階特産品ショップでは、旬の時期になると、圧倒的なボリューム感で特産品が棚に並び、「鳥取っつらっきょう」「鳥取のすいかっつらっパイ」3万円もするんだ！とお客さまを圧倒、今の季節は旬のずわいごの雌「親がに」を店頭で販売し、「子持ちで美味しそよ」「生ががいいね」とお客さまから好評を得ています。一方、「どうぶちくわって何?」「鳥取っつらっパイが獲れるんだ」とのお客さまの声にスタッフが答えず

る姿も、オープン当時のごこちなきが抜け今では様になりました。

2階レストラン「オステリアモンテマレー」では、鳥取県内から送られてくる旬の食材を、イタリアアンという斬新な切り口で提供することが都会のお客さまに受けています。

運んでくる料理やお酒を店長他スタッフが1つ1つ説明し、首都圏の方のみならず、本県出身の方から「鳥取の食材ってイタリアンになるんだ」とか、「イタリアンと地酒って意外と合うね」と驚きの声も聞かれます。また、不定期ですが旬の食材や地酒・地ビールを使ったイベントを開催しており、「西条柿って知らなかったけど美味しいね」とか、「地酒の強力で辛口で美味しい酒だね」とお客さまに新たな感動も与え



▲アンテナショップ2周年を記念して梨を配る平井知事

フレキシ製版・段ボール箱とパッケージデザイン

富士製版株式会社

代表取締役社長 福嶋 守

〒120-0012 東京都足立区青井2-7-14
TEL03-3852-4156 FAX03-3852-4158
e-mail fuji@tkg.att.ne.jp

●三百年の伝統を誇る
まろやかな熟成酒

朝三

藤井酒造(合資)
社長 藤井公典
〒682-0123 鳥取県東伯郡朝三町朝三701
TEL 0858-4330855
FAX 0858-4330856

●創業慶応元年 鳥取名産の伝統の味
ちくわ・かまぼこ

株式会社 りむろ

代表取締役 千村直美
〒681-1202 鳥取県鳥取市河原町布袋556
TEL 0858-76-3333 FAX 0858-76-3335

あすなる法律事務所
代表弁護士 山根 幸文
(倉吉市出身)

〒105-0003
東京都港区西新橋一丁目20番3号
虎ノ門法律ビル201号
電話 03(5251)0003 FAX 03(5251)0052
http://www.yamamasulaw.com/

四季と酒の蔵

稲田屋

INATAYA
http://www.inataya.co.jp

●日本橋店/☎03-3510-1718 ●秋葉原店/☎03-5297-1708
●大手町店/☎03-3282-1708 ●石神井公園店/☎03-5923-1708
●新宿西口店/☎03-3349-1708 ●米子店/☎0859-22-0070
●飯田橋店/☎03-3234-1708 ●本 部/☎03-3517-1900
●品川店/☎03-6718-1718

